Produced：福山 佑輝 supported by TRUTH PLANNING

ちょうど一年前、女子高生のはやりものチェックに始まったこの企画。連載一周年を機に本誌を入れてアイドル発掘に向かうべく、タイトルを「アイドル発掘☆リサーチんぐ娘。」にリニューアル。今回は音楽ディレクターである福山佑輝氏、スカウトマンG氏、スーパーバイザーとして本誌編集長を迎え、いつになく真剣に、時に下世話?に語ってもらった。

Vol.13 アイドル発掘 リサーチんぐ娘。

連載開始から早一年

編集長：一年間やってきたわけやけどいったい何人発掘してきたん？

G：本誌に載ったのは20人くらいですね。最近はスカウトするだけでもう大変。キャバのスカウトと勘違いされるし、ギャルに声掛けた時点ですでに怪しまれちゃいますからね（笑）

福山：今までに200人くらいオーディションしてきたんだから、倍率は10倍ですよ。街でスカウトする時点でカワイイ娘を厳選してるワケだから実倍率はそれ以上。選ぶほうも一苦労ですよ。

G：でもカラオケボックス貸切ってオーディションしたときは楽しかったね～！空気が違いましたもんね。

福山：そうそう、あれはよかったね。

編集長：オイオイっ、そんなん知らんぞ～。なんで呼んでくれへんねん！このコーナーに感情移入できひんかったんはそれやわ（笑）

福山：いやいや、編集長はお忙しいからね（笑）

求めるオンナノコはズバリ「妹系」

編集長：ところで、どんなラインの女の子を求めてんの？ボクは容姿は今時でも京女のしおらしさみたいなものを備えた娘がいいんやけど、ね。

福山：ズバリ言うと背が低めで瞳の大きな「妹系」。でも最近の娘は大人っぽいからプロダクションとかに見せるとアイドルとしてはなかなか売り込みにくいんですよね…。

編集長：ナルホドね。その路線でいくなら個人的にモー娘。の矢口が好きやね。元メンバーの中澤の年増からくるものとは違う、根性ババさがあって良いと思うわ（笑）そこが京女のイケズさに通じてる気がするねんけど。

福山：まぁ、理想を言えばモー娘。＜リサ娘。＜中島美嘉みたいなね。「妹系」としてのアイドル性とアーティスト性を兼ね備えた娘がいいね。

G：結局のところ、アイドルとして消費された後に、音楽であれ女優であれ 次のステージに進めるかが勝負ですよ。

これからはさらに幅広く！

編集長：これからアイドル発掘をしていく上でもっとメディアMIXさせていきたいなぁ。何人か揃った時点で、TV番組の公開オーディションしていくとか。さらにオフィシャル化していこうや！あっ、今までに掲載した中で、 誰かいい線いってる娘いいひんの？

G：いますよ～♪5月号に登場した「小笠原友美ちゃん」。めちゃ歌ウマイっすよ！久々に鳥肌立ちましたよ。

福山：現在、CF編集部のあるビルの地下スタジオでデモレコーディングしてるんですよ。某レコード会社と契約までイケるんじゃないかな～、あの娘は。その他にも、レコード会社から直接のオファーが来てたり、ファッションショーイベントでモデルをしたり、ライブ出演したりと表舞台に立ち始めてる娘はけっこういますよ。実際、ウチでオーディションした娘はレコード会社に評価を頂いてますからね。

編集長：なんか今後の展開が面白そうやな～！たまには編集部の人間もオーディションにまぜてや～（懇願）

福山：結局それが目的じゃん！

福山氏イチオシの小笠原友美ちゃん。アイドルとしての資質・歌唱力ともに文句ナシ！の17歳現役女子高生

そんなこんなで、本格的にオーディション活動を始動する「アイドル発掘☆リサーチんぐ娘」では現在、うら若きアイドルの卵を大募集！ 自薦・他薦は問いません。興味のある方は、dtj@m21.or.jpまでどしどし写メールをお送りください。

現在「リサーチんぐ娘」のHP制作中。HPでしか見られないPHOTO満載。読者投票制による特別企画も予定！要チェキラ！

モックン・カズローの 町内愛クルキャラ図解

PROFILE 1958年、京都生まれの毒身リターンサーファーで企業キャラコレクター。弊誌編集長をしつつ、日夜ペンネームにて町を徘徊しては、下世話ネタをあさっている。特技：若づくり

http://www.m21.or.jp/fame/aikuru

© QUATRE ILLUSTRATION

45 京阿月の こぼんちゃん

300mm

誕生日： 昭和55年9月8日（株）阿月京都電化設立と同時

生みの親： 当時出入りしていた広告代理店の（株）大広のスタッフ。ポルタ店の開店に合わせて、「どうせならただ、みたらし団子を売り出すのではなく、キャラに持たせて売ろう！」と提案したのが発。

出生地： 京都市中京区

名　前： 「こぼんちゃん」京都弁で小さい男の子のことで、団子の形が子供の頭の格好に見えたから、らしい。断定だが決して凄才説の片われでは如い。

身　長： 300mm

年　齢： 多分5～6才

役　割： 途方に暮れながらショーケースの中でみたらし団子を食べること。また、10本で700円の袋入りセットを行き交う人々にセールスプロモーションすること。

毎週水曜日は「京都チャンネル」の収録なんでKBSに行こうと、地下鉄の丸太町駅を降りて烏丸丸太町は北西角出口からお日さんを仰いだ瞬間の出来事どぇした。「何事も縁！」、ほんま近頃のおいらの周りはそんな出会いばかりの嬉しい毎日。まっしぐらに目の中に飛び込んできたのは「京阿月丸太町店」のショーケースの中にひっそり佇む男の子の京人形姿。「むむむ、まだまだ愛クルを見出す、持ち前の目も鼻も鈍ってはおらぬわい！そこの小坊主、名を名乗れ～い!!」とおたけぶも、気味悪がって振り向き止まるは、往来の見知らぬ人々。「いかんいかん久しぶりの京都らしいキャラに出会って思わず興奮しちまったわい。」とこっぱずかしさを隠しつつ、ショーケースに飾られた薄汚れた人形の前まで、おもむろに、足を進めて3m…「こいつは一体誰やねん？何ゆえに奉公人の格好をして団子を手にしとんねん？何でな～んで何で、一人で途方に暮れとんね～ん??」不思議が不思議を呼んでいたたまれなくなった気持ちは、すぐさま「京阿月」の六代目林倫子社長にぶつけられるのでおました。

そもそも「京阿月」の創業は江戸期の弘化年間、代々からの穀物問屋で主要商品が小豆であったことから、のちに京菓子製造や甘味処としてその生業を変遷させていくことになるのだが…そののち、ぬわんとみたらし団子が商品化になったのを機に、ただ団子だけを作っても他社と差別化を図れる訳もなく「社員一同、そんなんしょうもな～」と言ったか言わなかったか、まさに歴史はその時動いた。社長が英断を下しこの男の子がグワシ！とばかりに誕生したのでぁ～る。明治20年、五代目林寛一社長のあきんど時代ではなかったやろか～、往時はこんな奉公人姿のぼんたちが町中を、そりゃぁもうやんちゃ一杯に走り回ったはったんどっしゃろ～、とか色んなことを想像していたら、おいらの家業も実は近所の油小路二条を上ったところで染屋だったのを思い出した。きっとおじいの小さい頃もこんな格好して鼻たらしながら用事手伝うたりしてたんやろなぁとか何とか考えてたら、そうそう大丸さんにも似たような奉公人キャラが、こっそり店内に並んでいるのをまたまた思い出したぞ～。やっぱこの町は「あっちこっちでっち」な町やったに違いない…。

推定ライトスクープ

自称「思い込みが激し過ぎるライター」中尾が、日常に潜んだ謎や疑問を勝手に解釈、解明するアナーキーコーナー…！

ハッピーの都市伝説

小さな不幸続きで意気消沈→幸せになりたい！
→京都幸せ伝説を探索する

1200台のうち4台って、そりゃ難しいわな

スポーツジム狂いの私が撃沈した「おもかる石」

先日の朝のこと、駅に着いたら定期を忘れているのに気がついた。「つっても、今から帰れね～し…」と、泣く泣く自腹を切り改札へ。その途端、「ただ今、○△駅で発生した人身事故の影響で…」なんてアナウンス。アカン、取材に遅れる！ 慌ててケータイを探したが、なんと、ケータイまで忘れてた…。「神様、アタシが一体、何したっていうのよぉぉぅ！」とヤサぐれた気分の時、こんな話を耳にした。「四つ葉のヤサカタクシーに乗るべし」と。なんでもヤサカタクシーの三つ葉の行灯に、たまたま雨の日に葉っぱがくっついて四つ葉になっていたそうな。そしてそのタクシーに乗った客に、次々と幸運が訪れたという。以来ヤサカでは、市内に4台だけ四つ葉タクシーを走らせており、出会えば幸せを運んでくれる（らしい）。おお、まさに不幸な私にぴったり。でも、そんなの見たことないんスけど。もっと手っ取り早く幸せになれないのぉ？ と、探してみたらこんなのもあった。「伏見稲荷おもかる石伝説」。伏見稲荷大社の奥之院にある「おもかる石」の前で願い込めて石を持ち上げ、軽く感じたら願いが成就。逆に重く感じれば、願いは叶わないという。ちなみに私の場合、重くて手がもげそうでした。